

華浦地域 庁舎建設に関する検討会

【日時】 平成29年4月8日（土） 午後3時30分～5時

【場所】 華浦公民館 集会室

【出席者】 華浦地域住民ほか 計45名

【市説明者】 松浦市長、村田副市長、末吉総務部長、石丸庁舎建設室長、竹末庁舎建設室次長、工棟庁舎建設室建設推進係長

【配付資料】 「防府市新庁舎建設について～庁舎建設に係るこれまでの経緯等～」

- 【概要】
- 1) 市長あいさつ（松浦市長）
 - 2) 庁舎建設に係るこれまでの経緯等（石丸室長）
 - ・候補地選定の経緯を中心に説明
 - 3) 質疑応答

【質疑応答の概要】 *各発言は、要旨を簡略化して記載している。

◆質問者1

職員の安全だけでなく、そこを利用する市民の安全のためにも、一刻も早く新市庁舎建設がなされるよう願っている。

平成28年5月に建設候補地として駅北公有地エリアを選定するときの会議のはじめに委員長が駅北でいきたいという発言をされ、今から審議するのにおかしいと言った他の委員の意見は無視されたということである。どちらが優位かあまり変わらない、どちらもどっちなら今のところでもいいじゃないか。

コンパクトシティを赤い点線の範囲に決めたのはいつ誰が決めたか。現庁舎の敷地も、遠く離れているわけではない。警察や公的な施設も近い。私は、今のところ早く安全に作って欲しいと願っている。

◆質問者2

現庁舎の広いところから、狭いところになるのはなぜか。建設費が高いところになぜ変わるのか。活性化というが本当に活性化するのか。

●庁舎建設室長

一刻も早く建替えなければならないが、まちづくりの要素もあり少し時間がかかるだろう。委員会の中でも様々な視点からの意見があったが、総合的な見地から選ばれている。明らかにどっちという決着はつかなかったが、委員長が強引に進めたということはなかったと思う。コンパクトシティのエリアのことを言われたが、ここに書いているのは市役所が移転したときにインパクトを与えられる範囲ということで、コンパクトシティのエリアがこれで決まっているものではない。

広いほうが良いのは間違いないが、遊休資産化している土地を利用して将来の発展を展望できる場所として選んだ。そのときの費用はかかるかも知れないが、バックがあるという考え方をしたので、高いと言うだけで止めることはしなかった。

活性化については永遠のテーマであり、それに向けて努力したいということ。

◆質問者 2

決まっていないと言うが、北に決まっているではないか。市民の7割方は反対している。無駄な金を使わずに現庁舎に建てて欲しい。現地で何が悪いのか。

●市長

我々、行政体というものは悲しいかな色々な順番を踏んで物事を諮っていかなくてはならない。市民の声を大切にすることはもちろんだが、色々な方々の代表からお話を伺うところから入っていく。市民全部にお聴きするのは不可能。団体の代表で構成される協議会でお話を聴き、そこで導きだされたものを私たちの意見としてしっかりと市民にお示ししながらご説明していくという責任がある。

発展の可能性については、よく考えてみてください。30年くらい前の防府を。駅の前でもなかなかきれいな状態にならなかった。

◆質問者 3

土地の選定では少人数の意見で、市民の意見が反映されていないことから問題が起きている。来年の市長選の争点にしたらい。駅北では立体駐車場になるが、アクセルの踏み間違えなどもあり、駐車場は立体でないほうが良い。

◆質問者 4

3月27日に市議会の決議が出ているが、新聞報道では現庁舎案を作る考えはないとあった。先ほどは「何らかの対応を」と言われたが、もう少し詳しく聴きたい。

●庁舎建設室長

少人数の意見と言うが、市民の皆さん全員に聞くわけにもいかないし、参画と協働の進め方の中のひとつの方法。パブリックコメントやシンポジウムも参画と協働の一形態。今日の会もそう。少人数だから間違いということにはならないと思う。

立体駐車場が危ないということは確かにあり、事故なども起こっている。平面のほうが安くできるということはあるが、歩く距離が長くなるということもあり、立駐と平面を組み合わせたい。

決議については、全会一致であり、今、各地区を回ってご意見をいただいております。全地区でお話を伺った結果も踏まえて対応を考えていきたい。ただ、費用も生じることであるので慎重に考える。

◆質問者 5

デザインプラザの説明会にも参加したが、駅北ありきで、決定されたと受け取っている方が多い。市議会の決議を重く受け止め、現有地での計画を出して欲しい。

◆質問者 6

検討委員会の出された結論を否定するべきではない。問題は、情報開示が不足してい

るということ。昨年の市民アンケートでは庁舎の機能として防災拠点の機能を重視するという答えが50パーセントもある。まちづくりは21パーセントで5位。検討委員会という独立した中でしっかり議論することは大切だが、市民アンケートやパブリックコメントで示された民意を汲み取って欲しい。市の活性化、賑わいのあるまちづくりに反対するものではないが、現庁舎敷地とソラールの敷地を合わせた周辺の誇れる防災環境を失ったら二度と返ってこない。市議会の3月27日の決議が全員一致でなされたことは重たいことなので、是非二つの案を作って欲しい。駅北は不確定要素が多すぎる。

◆質問者7

私は駅北に移転するのには賛成ではないが、移転したとして、現庁舎の敷地は売却されてしまうのか。売却後は、どんな目的に使おうとも自由ということになるか。

●庁舎建設室長

現有地案を作ることについては、重く受け止めて、何らかの対応を考えていきたい。決定と受け取られていることについては、そういうことをお聴きするもの事実だが、こういった場でも決まっていないという説明しているところ。防災の面からも再検討をというご意見があったが、引き続き、検討したい。不確定要素の排除という面については、少しずつ詰めていきたい。最後の跡地利用の件は、売却というお話をされたが、今のところ、売却ということは考えていない。

◆質問者2

各地区回った後、2つの案の比較をして、議員が決めるのは酷だと思うので、市民の住民投票で決めたらどうか。

●市長

私どもは、検討委員会の方々の判断を重く受け止める立場にある。その判断を行政の判断として皆様にご説明をしていく、それもなるだけ短期間にといい熱い思いの中で4月1日から回らせてもらっている。この取組にはご理解をいただいていると思っている。

行政の判断だけでは物事はできない。将来に対しての責任も含めて、決断は市民がなさることになる。その方法は、今の時代では議会が代弁されることになる。アンケートだけでなく、住民投票ということもあるかも知れない。こういう問題は政争の具にすべきものではないと思っている。基本的にじっくりと相談していきながら、市民の声がどこにあるかを把握していくことが大事だと思っている。